

平成26年度第3回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「犯罪のない安全・安心 岡山県づくりを目指して」
- 2 日 時：平成26年9月2日（火）8：50～10：00
- 3 場 所：岡山市立岡山中央小学校 第1音楽室
- 4 参加者：大学生防犯ボランティア等 9名
- 5 知事挨拶

「犯罪のない安全・安心 岡山県づくりを目指して」地域を良くしようとしてくださる防犯ボランティアのおかげで、岡山県では11年連続刑法犯認知件数が減少している。しかし、倉敷市の連れ去り事件が発生するなど岡山のようなのどかな地域に似つかわしくない事件が起こっているのも事実である。まだまだ、取り組むべきことがあると思うので、今日は皆さんにいろいろ教えていただきたいと思っている。

6 発言内容等

- ・ 小学生から高齢者まで様々な年齢の方に接する機会があり、楽しいしやりがいを感じる。
- ・ 良いことをする輪が広がるのは素晴らしい。周りの人に良いことになるだけでなく、必ず自分自身に2倍、3倍となって返ってくる。
- ・ 朝のあいさつ運動について、ボランティアの数が多過ぎて「おはようございます」と声をかけても返してくれない子どもがいる。場に応じた人数で活動しないと良いことをしているのかえって相手を威圧してしまうのではないかと思うことがある。
- ・ 今の防犯教育の中で「知らない人とは話さない」と言われているが、知らない人の中には良い人もいる。良い人と悪い人の区別をどう子どもがつけていくかが課題である。
- ・ 犯罪を防ぐには、犯罪予備軍をつくらない取組も必要である。病気と同じで、治療に重点をおくよりも予防に力を入れるべきである。
- ・ 大学がある岡山市内での活動が中心であるが、住んでいる倉敷市でも活動したい。
- ・ 今は朝のあいさつ運動を中心に活動しているが十分だと思っていない。自転車の鍵かけ運動や駅でのパトロール、地域の防犯ボランティアとの連携などもこれから行ってきたい。
- ・ 大学生の防犯ボランティア活動が周知されていないので、小学校での防犯教室や地域の防犯ボランティアとの連携を深めていきたい。

7 知事のまとめ

- ・ 幅広い年代の人と触れ合えることは財産になり、コミュニケーション力を培うことは社会に出たときに役に立つ。活動を通じて小学生や年配者とも話ができる学生ボランティアは地域において貴重な存在と言える。
- ・ あいさつ運動で元気にあいさつできる子どもはよい。自分からできない子どもには集団ではなく個別にあいさつをすることで小さくてもよいので「おはよう」と言える環境をつくりたい。誰にどうしてももらいたいかによってやり方も変わってくるのではないかな。
- ・ 犯罪を予防するためには検挙することも必要だが、雰囲気づくりも大事である。人間は環境づくりが大事である。参加している人自身が楽しいと感じて防犯活動をすることで、子ども達が見守られていると感じたり、地域の人が、雰囲気が明るくなったと感じたりでき、それが環境づくりに役立っている。
- ・ 防犯ボランティアの活動を通じて、みんなで街を守っているという雰囲気は悪いことをしようとする人への抑止力にもなるし、悪いことをする罪悪感がより増すことにもなる。犯罪にまきこまれないための活動が、犯罪予備軍へのけん制の効果もあると思う。
- ・ 個人情報保護により情報の共有化できないため地域の絆が希薄化している。防犯ボランティアの活動は、一旦切れた地域の繋がりを再び結びつける大事な役割を担っている。
- ・ 皆さんのように意識の高い方、人のために頑張ることで自分自身の充実感を得られるボランティアを増やしていきたい。自分のお金と時間は全て自分のものであってビター文渡したくないという生き方もあるが、それは本人の幸せにも繋がらないし周りの人の幸せにも繋がらない。前向きで頑張っている、周りから見てぜひ応援したくなる、周りの人を応援してくれる人を一人でも増やしていきたいので、これからも活動を頑張ってください。